

日本のお札に最も多く登場した人物は？

聖^{しょう}徳太子^{とくたいし}で、1930年（昭和5年）に発行が始まった「乙百円券」に初めて採用されて以来、「銀行券の顔」として最も多く登場（戦前2回、戦後5回）しています。また、登場回数もさることながら、C五千円券とC一万円券は、四半世紀以上にわたって発行され（戦後に発行された日本銀行券では、発行期間が最も長い）、長年、国民に親しまれました。このため、いつのまにか国民の間に、「聖徳太子は日本銀行券の代

名詞」というイメージが浸透していったようです。さらに、聖徳太子像は、いずれも発行当時の最高額券に採用されたことから、「聖徳太子＝高額のお札」というイメージもあるようです。もっとも、聖徳太子像を使わない日本銀行券が発行されてから長い年月が経過しているため、こうしたイメージは徐々に薄れつつあるかもしれません。

ところで、聖徳太子像がこれだけ多くの日本銀行券に採用された理由は何でしょう？ それは、①「十七条の憲法」を制定したり、仏教を保護したり、中国との国交回復や遣隋使の派遣により大陸文化を採り入れるなど、内外に数多くの業績を残したため、国民から敬愛され知名度も高いこと、②歴史上の事実を実証したり、肖像を描くためのしっかりした材料があること、が大きな理由のようです。



乙百円券
1930年（昭和5年）1月11日



い百円券
1944年（昭和19年）3月20日



ろ百円券
1945年（昭和20年）8月17日



A百円券
1946年（昭和21年）3月1日



B千円券
1950年（昭和25年）1月7日



C五千円券
1957年（昭和32年）10月1日



C一万円券
1958年（昭和33年）12月1日

な お、GHQ（連合国最高司令部）は1946年（昭和21年）、かつて日本政府が決定した「肖像に相応しい人物」について、「聖徳太子以外は、軍国主義的な色彩が強いため、肖像として使用することを認めない」としました。この時、聖徳太子についても

議論があったようですが、当時の一萬田日銀総裁はGHQに対し、「聖徳太子は『和を以って貴しとなす』と述べるなど、軍国主義者どころか平和主義者の代表である」と主張して、その存続についてGHQを押し切ったと言われています。

コラム

日本のお札の肖像で最も長く使われた人物は？

歴史上の人物で、肖像として一番長く使われたのは誰なのでしょう？ そして、どのような銀行券なのでしょう？ それは、1889年（明治22年）5月1日から発行された「改造一円券」の武内宿禰たけのうちのみすくねです。この改造一円券は、1958年（昭和33年）10月1日に発行が停止されましたが、法律上は現在も使える銀行券（P3参照）で、110年以上の歴史を有しています。

ちなみに、この改造一円券は、日本銀行が1885年（明治18年）9月8日から発行した「旧一円券」の改良を目的に発行されたものですが、歴史上の人物に限定しなければ、旧一円券に描かれている大黒天像が最も長く使われていることとなります。

なお、通用期間が最も短かった肖像付きの銀行券は、和氣清麻呂わけのきよまさろの「ろ十円券」と聖徳太子の「ろ百円券」です。これらは、1945年（昭和20年）8月17日から発行されましたが、約6ヶ月後の翌年3月2日、新円切り替えに伴い発行が停止され、通用力も失いました。^(注)

(注) ちなみに、発行期間では、1927年（昭和2年）の金融恐慌時に発行された乙二百円券（通称：裏白二百円券）が約2週間と最短（P8参照）。もっとも、この銀行券の通用期間は、1946年（昭和21年）3月2日までの約19年だったほか、この銀行券に肖像は描かれていなかった。



改造一円券



旧一円券



ろ十円券



ろ百円券